

高校生の夢の舞台を実現するには — 持続可能なインターハイ登山大会 —

福井県立丹生高等学校

教諭 谷口康治

(福井県高体連登山専門部)

1. はじめに

本発表は令和3年8月に実施された「令和3年度^{※1}全国高等学校総合体育大会登山大会(以後、福井大会と省略)」の準備と運営の報告である。私は、この大会の事務局(総務委員長)として、令和2年4月から令和3年9月まで勝山市教育委員会(事務局)に勤務し大会の準備を担当した。この18か月の間、あわただしい日々の連続で、最も大きな試練は、新型コロナウイルス感染症拡大への対応であった。令和2年度の北関東インターハイ中止に伴う群馬大会の視察ができなくなり、はたして福井大会自体を開催できるのか、高校生の夢の舞台を実現するには何をすればよいのか、と次々と難題が出てきた。

新型コロナウイルス感染症関連を除いても、かねてから大会準備の面で、福井県は人口が少なく山岳部の数が少ない(=役員数が少ない)、会場地の勝山市近くに居住する顧問がいない、予定した幕営地が使用できなくなった、自治体との交渉で日本百名山の荒島岳をコースに設定できないなど多くの課題を抱えていた。

こうした不安をかかえる福井大会を準備しながらも、一方で、次期開催県に取組みやすく、持続可能な全国大会を実現できないかという思いをもち、この実践を進めた。

2. 研究の目的

課題研究として、大会運営に直結する次の点を研究の目的とした。

- (1) 新型コロナウイルス感染症に対し、安全・安心な登山大会にすること。
 - (2) 人材・財源・物品などの効率的効果的な配分を通して持続可能な登山大会にすること。
- この2点を言いかえると以下のとおりである。

感染対策を^{※2}行動目標化し、役員・予算・物品・情報などを効果的効率的に配分(最適化)すれば、次年度以降にも有用な大会となるのではないか。

3. 研究の方法

この発表は、感染症への対策と(人材・財源等の)大会最適化を試みた実践を通し、次年度以降に役立てることにある。具体的には、以下の手順で実践を進めた。

- (1) 福井大会のおかれた状況を分析し、重点とする対策を立てる。
- (2) コロナ感染対策を行動目標化し、従来の大会から変更・対応すべき箇所を明確にする。

※1 全国高体連登山専門部『令和2年度登山部報』(飯島プリント、2021年)に規定。1チーム選手4人で宿泊を伴う登山行動の団体競技。体力・読図・設営・天気図作成・医療知識など11項目100点満点で競う。

※2 嶋津良智『目標を達成する人と達成しない人の習慣』(アスカビジネス、2014年)。企業などで使用される用語。行動目標とは実施する目標。(例)1年で12の有名な日本の山に登ることを10年続ける。これに対し、結果目標は未来に実現する目標。(例)生涯で日本百名山の登頂を果たす。

- (3) 福井大会において、人材・予算・物品・情報などを効果的効率的配分（最適化）する。
- (4) 他の競技担当者とも感染症対策や最適化の事例を共有し、相互の業務遂行に役立てる。

4. 研究の内容

(1) 福井大会のおかれた状況について

① 平成24年（北信越）新潟大会～令和元年（南九州）宮崎大会

平成24年度全国高総体（北信越）新潟大会が終了し、9年後の登山大会は「福井県」が担当することを北信越高体連の協議で決定されていた。この時点での福井県の登山専門部加盟校は6校であった。その後、生徒数の減少やベテラン顧問の異動があり、山岳部が廃部される学校が相次ぎ、大会時の役員不足が深刻化していた。一方で、大会日程やコース、幕営地の設定は従来大会を継続する想定で、役員編成や予算編成に取りかかった。

② 令和2年全国高校総体（北関東）群馬大会の中止以後

令和2年3月末に、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、東京五輪が1年延期となり、4月末には全国高校総体の中止が発表された。福井大会にとって運営の手本となる群馬大会がなくなり大会本番の動きが暗中模索の状態となった。私が勝山市に派遣となったのがこの時期であった。その後、感染症の拡大は収まらず、全国規模のイベントも次々と中止となっていた。この頃、役員から「2年連続のインターハイ中止を避けたい、実現できる大会をつくろう」という声上がりはじめた。勝山市長からも大会実現の要望をいただいた。

令和2年8月に、福井県登山専門部は、当初の予定日数・コースを断念し、登山行動2日とする短縮案に切り替えた。この最大の理由はバス輸送の密状態を避けられぬことであり、同時にテント泊も中止し宿泊場所を体育館と自然の家に決定した。この変更については、勝山市・福井県・全国登山専門部にも了解を得た。なお、表1に変更の内容を示した。

表1 福井大会の当初案と変更案

変更	令和元年段階	令和2年8月以降	理由や説明
時期	8月上旬	8月下旬	東京五輪・パラリンを回避
期間	8月6日～11日（5日間）	8月20日～23日（4日間）	1日短縮
登山コース	① 法恩寺山コース ② 経ヶ岳縦走コース ③ 取立山周回コース	① 三頭山・大師山縦走コース ② 取立山周回コース	経ヶ岳登山の際に必要な林道を使用するバス輸送ができない
宿泊地	スキージャム幕営地（テントで3泊）	男子：勝山市体育館（2泊） 女子：青少年自然の家（2泊）	密状態となるテント泊中止、設営審査を長山公園で実施
大幅な審査の変更点	① 従来の炊飯審査 ② 従来の装備審査	① 炊飯の中止、事務局が2泊分の朝夕弁当を手配 ② 感染症予防の装備品目追加	① 密状態となる炊飯（選手が食材を持参し調理）を中止 ② 予防用の団体・個人の装備

(2) 新型コロナウイルス感染症への対策

① 予防策

令和2年から3年にかけて、学校・自治体・高体連・山岳会より、日常生活や登山時の感染症予防策について種々のガイドラインが出された。8月の登山大会を実施する上で、これらを参考に、事務局では以下のア～エに示す要項や基準を変更した。なお、大会プログラムは、県総体準備室から特に指示がなく、従来通りの作成手順にしたがった。

- ア 実施要項 …「新型コロナウイルス感染症対策（ガイドライン遵守）」を追加。
- イ 審査基準 …福井大会での審査ルールブック。審査員長と事務局が協議し、登山行動時、設営、炊飯、装備の審査基準と指導目標を文章化。
- ウ 健康カード …※³個人健康カード（大会前、大会中）、チーム健康カード（大会前、大会中）の書式を医療関係者と協議しながら作成した。個人健康カード（大会中）と運用チャートについて、【資料】に示す。
- エ 予報1号 …コースガイド及び競技用情報（大会山域の地形・気候・歴史・動植物などの解説）などを提供する登山大会の冊子（大会HP掲載）である。冊子中の連絡事項で、感染症への予防策を具体的に示す必要があり、登山での感染防止に必要な消毒液・マスク・体温計の所持について、変更点を明らかにした。例えばマスクは「多めに持参せよ」では審査に対応できず、指示事項として通用しない。マスクを着用する場面としない場面の明示、必要枚数、防水、ゴミ捨てるの仕方など細部まで行動目標として明確に文章化する必要があった。なお、以下の文書を根拠に、大会での装備審査が実施されている（抜粋）。

- ・登山行動中は、歩行中・飲食時など一部を除き、選手・監督・役員はマスクを着用する。
- ・歩行中の選手の前後間隔は、2m程度とする。
- ・歩行中は不用意に手で顔に触れないようにし、タオルは自分用として共用をしない。
- ・登山中、多数が使用したロープや岩などに触れた後は携行用消毒液（アルコールジェルなど）を適宜使用する。
- ・装備品目の体温計は「非接触型体温計（団体装備）」または「体温計（個人装備）」とする。
- ・マスク（大会日数4日分、防水）、予備マスク（1日分、防水）、ゴミ袋（適量）、携行用消毒液（アルコールジェルなど）を各自で準備する。

② 対応策

感染症対策では予防策を講じることに焦点がいくが、大会の可否判断（中止する場合の条件）の策定も重要な業務である。令和2年8月以降、全国高体連事務局に対し、福井県全国高校総体準備室（以下、県総体準備室）を通じて、大会可否判断について策定（新型コロナ感染症拡大にともなう対応策）を依頼したが、回答なしの状態が続いた。再度、登山大会事務局から県総体準備室に、登山を含む全競技共通の対応策の作成を依頼した結果、県総体準備室が中心となり策定した対応策が提示された。以下に主なポイントを示す（抜粋）。

- ア 大会前2週間で福井県が緊急事態宣言地域になった場合、県内の総体中止を検討する。
- イ 大会前2週間で選手欠場者が、予定の25%を越えた場合、大会の中止を検討する。
- ウ 大会中、開催市内で医療機関の逼迫、クラスター発生があった場合、大会を中止する。

この対応策が示され、令和3年3月段階で、福井大会事務局は、全国登山専門部と協議しながら「予防策」「対応策」を作成した。おかげで、4月以降の可否判断に関しブレのない方針を保つことができた。時期が早く、他競技担当からも有用だったと聞いている。

※3 愛知県の国際山岳看護師が作成したモデルを参考とした。本人は行動役員として参加し、カード運用を含め大会に協力いただいた。なお、個人カードは、役員・報道・学校関係者など役割に応じ作成している。

【資料】「個人健康カード」及び「運用チャート」

浦河 陽子（愛知県光生会病院 国際山岳看護師）の指導

個人健康カード(大会中)

選手 - 監督 - 選手

高校		男・女		氏名		
既往歴	無・有 ()	アレルギー	無・有 ()	持参薬	無・有 ()	
	8月20日(金)	8月21日(土)		8月22日(日)		8月23日(月)
	起床後～翌朝起床まで	起床後～下山まで	下山後～翌朝起床まで	起床後～下山まで	下山後～翌朝起床まで	起床後～閉会式まで
飲水量(ml)	ml	ml	ml	ml	ml	ml
尿回数	回	回	回	回	回	回
便回数	回	回	回	回	回	回
前日からの睡眠状況	A・B・C・D	A・B・C・D	/	A・B・C・D	/	A・B・C・D
食欲	A・B・C・D	A・B・C・D	A・B・C・D	A・B・C・D	A・B・C・D	A・B・C・D
ストレス度	A・B・C・D	A・B・C・D	A・B・C・D	A・B・C・D	A・B・C・D	A・B・C・D
体温	朝	夜	朝	夜	朝	夜
	℃	℃	℃	℃	℃	℃
症状があれば○をつけて下さい	喉の痛み・咳・痰・鼻水・頭痛・身体のだるさ・息苦しさ・味覚異常(味がしない)・嗅覚異常(匂いがしない)	喉の痛み・咳・痰・鼻水・頭痛・身体のだるさ・息苦しさ・味覚異常(味がしない)・嗅覚異常(匂いがしない)	喉の痛み・咳・痰・鼻水・頭痛・身体のだるさ・息苦しさ・味覚異常(味がしない)・嗅覚異常(匂いがしない)	喉の痛み・咳・痰・鼻水・頭痛・身体のだるさ・息苦しさ・味覚異常(味がしない)・嗅覚異常(匂いがしない)	喉の痛み・咳・痰・鼻水・頭痛・身体のだるさ・息苦しさ・味覚異常(味がしない)・嗅覚異常(匂いがしない)	喉の痛み・咳・痰・鼻水・頭痛・身体のだるさ・息苦しさ・味覚異常(味がしない)・嗅覚異常(匂いがしない)
自由記号欄 (例：靴擦れ・膝痛等)						
総合判定	A・B・C・D	A・B・C・D	A・B・C・D	A・B・C・D	A・B・C・D	A・B・C・D

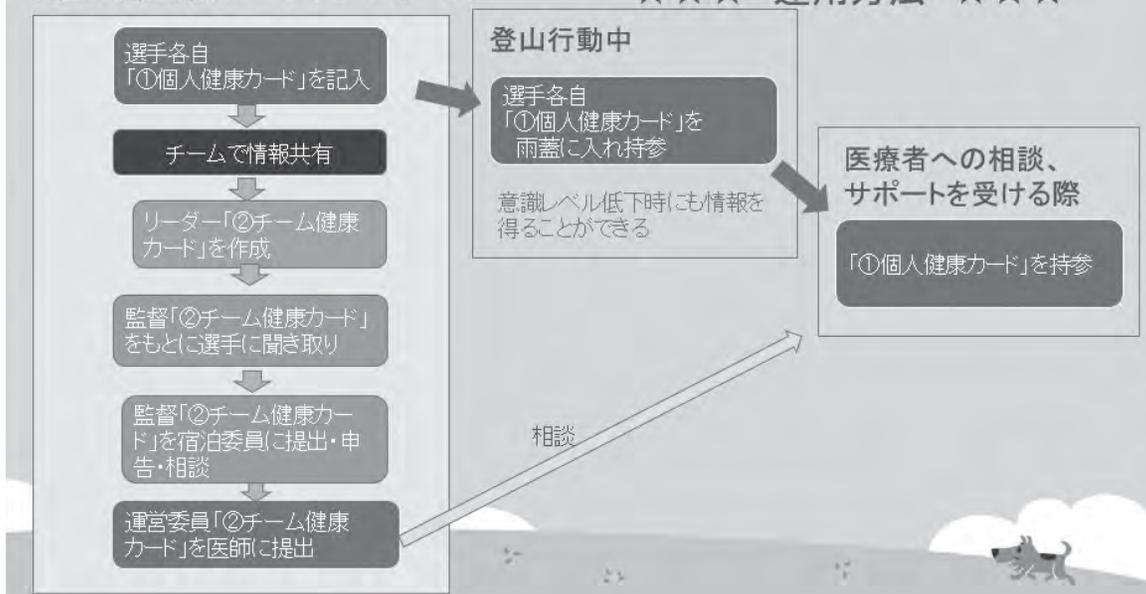
※ 評価の目安 A：良好 B：普通 C：やや不良 D：不良

★このカードはパーティ健康カード作成の度に、チームの監督の確認を受けること。

★登山行動中はザックの雨布タに入れて携帯すること。

<個人健康カードについて>

★★★ 運用方法 ★★★



(3) 大会の最適化（人・金・物・情報の効果的効率的配分）

① 役員編成

令和3年4月の福井県高体連登山専門部加盟校は3校になった。8月に福井大会の主管を担当する登山専門部は部長・登山隊長・総務委員長を除くと11名（うち新顧問が3名）体制だった。足りない分は集める以外、道はなかった。

大会では、約500名の選手と監督が、2日間で標高1,000mを超える山々を登山するので、その統括のため、コース隊長（2名）・副隊長（2名）・班長（16名）・先発（2名）・支援（16名）・通信（7名）・医療関係者（8名）、審査員（21名）ら約100名の行動役員（登山行動あり）が必要となる。これは最低限の人数であり、この確保のため、登山専門部OBや山岳部の教え子らに連絡を入れたり、地元山岳会や近県の高校教員に要請したりして、何とか目処が立った。福井大会の行動役員の配置は、次の4点に特色がある。

- ア 男子隊・女子隊ともに8班×6チーム体制（従来は6班×8チーム体制）
- イ チェックポイント（以下CP）係12名を新設
- ウ 副班長が支援隊員を兼任（従来は、副班長と支援隊員は別業務）
- エ 男子隊・女子隊ともに支援チーム（班長2・副班長2・医療従事者1）4つを設置

これらは、登山隊長と男子隊・女子隊のコース隊長が中心に考慮した仕組みである。

アの場合、従来大会より役員数は4名増となるが、バス乗車での密を避けることができ、選手の管理もしやすくなった。イのCP係は、福井大会でのチーム行動（一定区間を選手らが登山）時の選手の管理をするもので業務上必要であった。ウの副班長は、班長を補佐しながら支援隊員を兼任するので、支援隊員の人数分を削減できた。エの支援チームは、令和元年の宮崎大会を見習い、チーム行動中に実施した。登山中に体調不良となった選手に対し、早期に的確な対応するための組織であり、ア～ウ体制に連動している。こうした行動役員の配置変更は、効果的効率的配分ができた典型といえる。

一方、大会には、式典、会場、受付、宿泊、弁当などの運営役員（登山なし）も必要であり、短期的な業務を地元の勝山高校の教員に依頼した。

過去3大会の行動役員と運営役員の人数を表2に示す。これ以外の役員として、全国常任委員・技術顧問・審査員・気象予報士・全国事務局など約50人に協力していただいた。予算削減のため役員数を減じたいところだが、安全かつ円滑な運営を考え、現状維持となった。

表2 全国大会での役員数の比較（大会記録報告書から抜粋）

	H30 三重大会	R01 宮崎大会	R03 福井大会
行動役員（登山あり）	89人	88人	81人
運営役員（登山なし）	36人	21人	41人

② 予算編成

登山大会の会計は、運営費（県が2／3・市が1／3を負担、チーム参加費や補助金等含む）と、大会諸経費（選手・監督から徴収、現地交通費等）の2つがある。

まず、運営費は、諸謝金（医師・気象予報士への謝金）、報償費（メダル等の経費）、旅費（役員の交通費・宿泊費）、消耗品費（競技用・運営用物品購入）、印刷製本費（ポスター・プログラム・報告書作成）、借料及び損料（会場・役員バス借上・無線機レンタル・仮設ト

イレンタル)、食料費(役員弁当)などの項目がある。

表3は、近年の大会で支出額の多い項目と決算額である。運営費総額は、岡山大会を除き2千万円強で推移している。支出額は、旅費・借料及び損料・食料費の順である。

表3 登山大会の上位支出項目の決算額(過去6年) 単位は千円(福井大会は予算額)

開催地	① 旅費	② 借料・損料	③ 食料費	運営費合計
R03 福井大会	8,700	3,766	1,358	18,691
R01 宮崎大会	13,961	7,754	985	27,110
H30 三重大会	9,780	3,608	1,920	20,532
H29 山形大会	13,940	3,992	1,768	27,142
H28 岡山大会	6,933	3,452	1,339	17,455
H27 滋賀大会	10,739	5,615	999	22,785

福井大会の運営費は、県総体準備室と勝山市財政課の指導を受け、令和3年3月段階の予算は18,691千円であった。予算編成や支出では、状況に応じて以下のような配慮をした。

- ア 旅費 ・従来大会より1日短縮により減額した。しかし、その後、役員宿泊のホテル代が増額(繁忙期)し、一部を自然の家の宿泊で代替した。
- イ 借料及び損料 ・登山口仮設トイレ数を従来より増加(選手の健康管理、円滑運営)。
・大会に不可欠なデジタル無線機は、安価なレンタル料の県外業者とした。大会中は無線機100台で運用できた。
・役員輸送バス代増加(※4福井県バス協会管理により遠方業者あり)。
・レンタカー費はゼロ。勝山市所有の車両や軽トラックを使用した。審査員等の私有車借上費用は、全国専門部会計から支出を依頼した。
- ウ 食料費 ・事前研修2回、会議1回、本大会での役員の弁当費。早朝の弁当注文があったため、弁当単価は節減が難しかった。
- エ 委託料 ・登山道の整備(草刈り、倒木除去)は、業者委託せずに、地元山岳会、勝山市職員、登山専門部でボランティア作業をした。
・大会後の借用施設の清掃費(想定外の施設の汚れが発生)を支出。
- オ 雑費 ・服飾費に関して、役員長袖シャツ費用を対象内経費としたこと。(通常運営費規定では、半袖ポロシャツのみ支給である。しかし、登山行動では安全上長袖シャツが必要であり、この費用の負担を、県担当者とともに資料を集め、対象内経費として実現できた。)
- カ その他 ・選手と監督に配布する大会地図印刷費(前年度の県の予算で作成)。
・大会中の役員服装のクリーニング費は、別財源が必要となる。

なお、大会諸経費は、選手・監督の現地交通費など受益者負担分を支出し残額を返金する会計である。大会では、女子隊の計画輸送費(バス代)が予算額を上回り追加徴収せざるを得なかった。地元バス業者の見積りを当てにしたため、事後に煩雑な処理を要した。

※4 大会でのバス輸送は各市町担当でなく、福井県実行委員会が委託した福井県バス協会が担当した。

③ 物品借用

競技用・運営用ともに、必要物品を借用できれば、借用費や消耗品費を削減できる。

大会で役立つのは、以下の学校や施設の借用であり、減免申請を行い無料で使用できた。福井県と勝山市は大会の主催者であり、借用に関して協力的でありがたかった。

- ア 福井県立勝山高等学校…運動会テント10張、椅子400個、セミナーハウス合宿所（会議室は委員長シンポジウム会場、和室は役員・補助員の宿舎として借用）など。
- イ 福井県立奥越特別支援学校…花のプランター10個（歓迎メッセージボード付）。
- ウ 福井県立奥越高原青少年自然の家…役員研修会議及び大会中女子宿舎として、キャンプ場を含め会議室・体育館など全館。会議の際の物品等。
- エ 勝山市（体育館・市民交流センター・歴史探遊館など）…看板枠、椅子、シートなど。

④ 情報データ

大会事務局として外部との連絡上、電子メールは必要不可欠である。勝山市から派遣教員に提供されたメールシステムは、ZIP形式添付ファイルをすぐに処理できず、設定を変更してもらった必要があった。それでも、設定の厳しい学校や組織もあり、6月下旬の参加申込が殺到する時期に、監督と事務局の双方が自宅メールで送受信するケースもあった。次年度以降の開催県でも同様のことが起こると予想され、この問題の解決が望まれる。

⑤ 関連行事及び式典

ここで説明するのは、福井大会に関連して実施した以下の行事である。

- ア プレ大会（前年度9月、県内役員の一部と勝山市消防署が参加）
- イ 役員研修会議（6月は県内役員と自衛隊員中心、7月は県外役員中心）
- ウ 拡大事務局会議（7月、全国登山専門部常任委員と審査員が参加）
- エ 大会前諸会議（8月、専門委員長会議、監督リーダー会議、視察員会議など）
- オ 開会式・閉会式（大会中、挨拶や人員を縮小しながら実施）

アは前年度に実施したもので、大会に向けてのコース調査、無線機使用、業務確認、緊急時対応訓練などを通して役員養成につながった。イ～エの行事も、同様の目的で実施した。これらの行事を削減したり、別行事で代替したりするのは不可能であった。

加えて、6・7月は大会参加申込・プログラム作成・予報（競技・運営版）作成という作業と重なった。とくにイ・ウは、計3度の会議となり、それぞれに、要項作成、役員派遣依頼と出欠調査、宿舎申込と部屋割、バスと弁当と無線機の注文業務が加わるため多忙を極めた。事務局の立場からふりかえると、全体業務の最適化を図るため、開催年度5月までに事前にできる業務を済ませるべきであった。福井大会の場合、「大看板を含めた看板デザイン完成」や「大会申込書式の事前試行」を6月に行っており、これが反省点である。

オの開会式・閉会式について、他競技から「10分程度の開始式にした、廃止した」という例を聞いた。しかし、登山大会は、大会初日に選手全員対象の筆記試験があること、閉会式に順位決定が発表されることを考慮し、規模を縮小して実施した。具体的には「主催者の挨拶を減らす、壇上の人数を減らす、参加役員を従来の半数にする」という制限を設けた。

(4) 他の競技との連携と協力

令和3年度の高校総体は、福井県で13競技（陸上、サッカー、登山など）、北信越など他5県で17競技が実施された。福井県内競技担当者と以下の内容で質問や連絡を行った。登山大会事務局から問合せた件が多く、互いに業務に追われ単発的なもので終わってしまった。

- ・種目別競技委員会の総会 …登山競技委員会の委員構成
- ・開会式や閉会式の動向 …式典の廃止や縮小内容
- ・コロナ感染症対策の動向 …予防策と対応策での全国専門部の対応
- ・出版物や看板などの作成 …種目別のプログラム、ポスターでの工夫
- ・各市町でのおもてなし工夫…選手へのふるまい、おもてなし、草花装飾の有無

5. おわりに

令和3年度の登山大会は、8月20日～23日に、天候に恵まれ無事に終了した。参加者は、選手・監督440名、役員205名、補助員70名であった。大会を終えて、成果と課題を示す。

(1) 研究の成果

① 新型コロナウイルス感染症対策（予防策と対応策）

全ての参加者に会場地入り2週間前からの健康カード記入を求めるなど予防策を周知した。大会前に出場辞退1チーム、役員2人欠席（濃厚接触者関連）があったが、大会での感染者は「0人」であった（大会後2週間含む）。これは、参加者の感染症対策への高いレベルでの意識と行動によるものと考えられる。なお、福井県実行委員会によると、インターハイ期間中の13競技中の感染者発生は、「6競技で14校」であった（令和3年9月7日段階）。

② 大会での最適化（人材や財源の効果的効率的配分）

計4回の役員研修などの期間を利用し、役員数や必要物品数を算出した。役員編成では、チーム行動を円滑にすべく配置を改善した。予算編成では、旅費・借損費を中心に減額した。式典では時間短縮と参加者削減を行った。役員や行事の縮小は簡単でないが、予算は総額が大きい分、削減の余地がある。9月下旬に、次期開催県への物品とデータの引継をすませた。

(2) 今後の課題

① 役員研修

福井大会では役員数は確保したが、その研修には課題が残った。計3回の研修に参加できない行動役員もいた。また、運営役員として弁当配布など業務に支障がでた場面があった。大会には業務を理解した役員が必要であり、その役割や委託内容を明確にすべきであった。

② 安全・安心な大会をめざして

次年度以降の持続可能な大会を目指す上で、以下2点を大会主催者に提案したい。

- ・大会プログラムに「新型コロナウイルス感染症の予防と対策フロー」を掲載し、感染症対策を維持すること。現行は「熱中症予防と対策フロー」について掲載されている。
- ・選手や役員へ飲料サンプリングもしくはドリンク提供ができる環境とすること。令和3年度はナショナルスポンサー制約（会場地の他メーカー飲料販売不可、選手のみ粉末を配布）があり、暑い中で役員や補助員の飲料が不足状況であった。現状の熱中症対策は不十分である。

第56回全国高等学校体育連盟研究大会 課題研究計画書

ふりがな	たにぐち やすじ	都道府 県所属 校	福井県立丹生(にゅう)高等学校
申請者氏名	谷口 康治 (福井県高体連登山専門部)		
申請者連絡先	学校 〒910-0147 福井県丹生郡越前町内郡41-18-1 TEL 0778-34-0027 FAX 0778-34-0405		
	自宅 〒915-1241 福井県越前市曾原町1-42 TEL 0778-21-1017 FAX なし		
	E-mail ; yasuji@nx.ttn.ne.jp		緊急連絡先 090-7083-0239
研究テーマ	高校生に夢の舞台を実現するには —持続可能なインターハイ登山大会—		
どのような課題に対応した研究であるかkey word の形で示すこと			
key word	インターハイ ウイズコロナ 安全・安心な大会 人・物・財源・場所の最適化		
研究目的(何を、どこまで明らかにしようとするのか、焦点をしぼり、具体的に記入すること。)			
<p>私は、令和3年度全国高校総体登山大会に向け、前年度から会場の福井県勝山市に派遣され、準備を進めている。この業務は、予算作成、役員編成、会場や関係機関との調整など多岐に及ぶ。さらに、今回の大会では、新型コロナ感染防止対策を万全に行う必要がある。</p> <p>一方、ここ数年のインターハイ登山大会では、山間部の自治体と少人数の高体連専門部が実行委員会を組織するも、限られた人材と予算で苦慮している様子がうかがえる。</p> <p>今回の大会では、これらの問題を解決しながら、ぜひとも高校生が活躍する夢の舞台を実現させたい。では、どうすれば限られた環境でもインターハイを実現できるのか。また、そのための条件は何なのか。ここでは、インターハイ運営そのものを研究の対象とし、その目的を以下の2点とした。</p> <p>① ウイズコロナ時代の安全・安心な登山大会を運営すること。</p> <p>② 人・物・財源・場所の効率的効果的な配分を通して持続可能な登山大会にすること。</p> <p>大会前に「①・②の要素を入れた新しい登山大会様式(福井大会モデル)」を仮説として設定し、全国高校総体登山大会(令和3年8月)を実施しながら仮説を検証する。</p> <p>終了後には、検証して得た①・②の視点を、令和4年度以降の登山大会に生かせる継続性あるものとする。おなじく①・②の視点を、インターハイ他競技・種目にも運用できる汎用性あるものとする。</p>			
研究計画・方法(研究目的を達成するための研究計画と方法について研究経費との関連も含めて具体的に記入すること。)			
<p>研究計画・方法</p> <p>令和2年9月～12月 研究の構想と情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R01宮崎大会、H30三重大会、H29山形大会の実施報告書を分析 ・SWOT分析等を活用し福井大会の現状把握(外部・内部要因からの強み・弱み) <p>令和3年1月～3月 仮説の原案作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮説原案=福井県実行委員会と連携前述の①・②を達成する大会の立案 「感染対策を行動目標化し、日程・場所・役員・予算・物品・審査・式典について 効果的効率的配分(大会の最適化)すれば持続可能な大会となるのではないか」 <p>令和3年4月～7月 仮説の修正と設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮説原案を全国高体連登山専門部に提示、全国大会運営の観点から修正してもらう ・計4回の準備大会を実施しながら、7月末までに仮説を設定 ・他競技(陸上、サッカー、自転車、カヌー等)にも情報提供 <p>令和3年8月 仮説をもとに、全国高校総体登山大会(他競技も同時期)を実施</p> <p>令和3年9月 仮説の検証(前述①・②の視点の整理)</p>			
研究の特色			
<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度全国高校総体登山大会を研究対象とすること ・福井大会が抱える課題について、SWOT分析などから、プラス面とマイナス面を整理すること ・前述①に関する感染対策について、具体的な行動目標として示すこと ・前述②に関する効率的効果的配分について、従来の大会と福井大会の変更点を明確にすること ・仮説に対する検証では、①・②の視点から次年度以降の継続性と他競技への汎用性をもたせること 			